「第２回大船渡線沿線自治体首長会議」

議事次第

日時：平成 27 年 7 月 24 日（金）15:00～16:00
場所：国土交通省
中央合同庁舎３号館４階幹部会議室

１．　開　会

２．　挨　拶

３．　議　事

・大船渡線復旧についての東日本旅客鉄道株式会社としての考え方

４．　閉　会

（配付資料）
・大船渡線沿線自治体首長会議　名簿
・東日本旅客鉄道株式会社説明資料

大船渡線沿線自治体首長会議　名簿

西村　明宏	国土交通副大臣（座長）
戸田　公明	大船渡市長
戸羽　　太	陸前高田市長
菅原　　茂	気仙沼市長
千葉　茂樹	岩手県副知事
三浦　秀一	宮城県副知事
深澤　祐二	東日本旅客鉄道株式会社代表取締役副社長
藤田　耕三	国土交通省鉄道局長
菱田　　一	復興庁統括官

（敬称略）

大船渡線に関する基本的な考え方について

2015 年 7 月 24 日
Ｊ　Ｒ　東　日　本

○震災前に大船渡線が果たしてきた役割

・大船渡線は沿線地域の基幹交通を担うとともに、一ノ関方面への速達性の高いアクセスの機能を持っていた。
・その後、一般道路及び高速道路整備の進捗による道路交通の利便性向上及び自動車保有台数の増加等により、気仙沼・盛間の利用者（平均ご利用人員）はＪＲ発足後（1988 年度）の 1,349 人から震災前（2009 年度）では 453 人まで減少し、高校生等の通学や高齢者のご利用が中心となっていた。
・このため、相対的に大船渡線の優位性は低下し、鉄道の特性を十分に発揮できる水準とは言い難いことから、持続的に地域交通としての役割を果たせなくなるおそれがある状況となっていた。

○BRT による仮復旧

・このような中、東日本大震災が発生したが、地域の基幹交通が機能しない状態が長く続くと地域の復興に悪影響を与えることになるため、BRT の仮復旧により交通手段の確保を図ることとし、下記の内容を実現してきた。

①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段を提供

沿線自治体からの要望に基づいて新駅を５駅設置し、今後更に１駅設置予定である。また、大船渡駅周辺区画整理事業の進捗に合わせ運行ルート及び駅位置を柔軟に変更してきた。

②津波到来時の安全を確保

東日本大震災と同等の津波が到来した場合でも、BRT が直接避難出来るよう、津波避難マップの整備や避難訓練により、安全を確保してきた。

③多くのお客さまにご利用頂ける高い利便性の提供

速達性：専用道の整備による渋滞回避や、交差点での BRT 優先走行により速達性確保を図ってきた。

定時性：専用道整備の進捗により、遅れの実績も終着駅において５分未満の便が 90%以上を占めるようになり、概ね定時性が確保できている状況である。

利便性：・パターンダイヤの導入と運行頻度の向上を図ってきた。
・鉄道・BRT 乗換駅での同一ホーム乗換化や車両ステップに合わせたホームと縁石を設置しバリアフリー化を進めてきた。
・駅の待合室・屋根・照明・トイレの整備を図り、赤を基調とした統一的なデザインを導入した。
・スムーズな乗降を目指し、専用ＩＣ乗車券・定期券『Odeca』を導入するとともに、『Suica』の利用も可能とした。

・時刻表への掲載及び鉄道との直通切符の販売等を実施した。
・遅れ発生時でも確認可能なロケーションシステムやスマートフォンアプリ『BRT ネット』を導入した。

○今後、更に取り組む内容

④地域交通の活性化への貢献

（地元要望に基づく更なる新駅設置）

・BRT 専用道から離れた公共施設等への新駅設置と一般道経由での日中時間帯のダブルルートでの運行

・BRT 区間から離れた公共施設等への新駅設置と延長運転の実施

（地域の拠点としての活用）

・基幹交通の BRT と、路線・公営・コミュニティバス等の地域交通との結節点として、BRT 駅を地域の拠点として活用

（専用道整備）

・陸前高田駅付近区画整理事業に合わせた整備による速達性・定時性の向上

⑤交流人口の拡大に向けた利便性向上

・BRT・鉄道乗換駅経由よりも所要時間が短縮可能な新幹線駅アクセス

⑥産業や観光の振興による地域の活性化

・観光ＰＲや旅行商品の造成等を通じた観光の振興

・三陸地域の地産品ＰＲとＪＲ東日本グループ全体での地産品の活用と販売や６次産業化への取り組み

・BRT を使用した沿線小学校・幼稚園の社会科見学、商工観光事業者への試乗会・報道公開、催事への出展等への取り組み

○まとめ

・震災前の大船渡線は地域の基幹交通としての鉄道特性を十分に発揮できる水準とは言い難い状況となっていた。

・BRT による仮復旧によって、新駅設置、復興の進捗に合わせた運行ルートや駅位置の変更、速達性・定時性・利便性の確保による機能の維持・向上を図ることができ、地域の実情に合致した交通手段となっている。

・今後も、これに加えて沿線自治体からの要望に基づく新駅設置や地域の拠点としての駅の活用、交流人口の拡大に向けた利便性向上、産業・観光振興による地域活性化等、地域のニーズに柔軟にお応えすることで、地域交通としての役割を果たしていきたい。

・さらに、延伸が図られる三陸道を利用した高速バスとの連携や、フィダー交通と連携した交通ネットワークの確保の観点からも、大船渡線の担ってきた機能の提供には、引き続き、現在運行している BRT が最もふさわしいと考えている。

・よって、被災地の復興まちづくりが本格化する中、地域が更に発展していくために、復興に貢献する持続可能な交通手段として BRT を提案する。

震災前に大船渡線が果たしてきた役割

・沿線地域の基幹交通を担い、一ノ関方面への速達性の高いアクセスの機能を持っていた。

↓

・道路交通の利便性向上及び自動車保有台数の増加等による利用者の減少
⇒気仙沼・盛間の利用者（平均ご利用人員）
1,349人（1988年度）⇒453人（2009年度）
高校生等の通学や高齢者のご利用が中心

↓

・相対的に大船渡線の優位性は低下
・鉄道の特性を十分に発揮できる水準とは言い難い
⇒持続的に地域交通としての役割を果たせなくなるおそれがある状況となっていた。

BRTによる仮復旧

東日本大震災が発生

地域の基幹交通が機能しない状態が長く続くと
地域の復興に悪影響を与えることになるため、
BRTによる仮復旧により交通手段を確保

BRTによる仮復旧により、
①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段を提供
②津波到来時の安全を確保
③多くのお客さまにご利用頂ける高い利便性の提供
を実現し、地域の実情に合致した交通手段となっている。

復興に貢献する持続可能な交通手段の提案

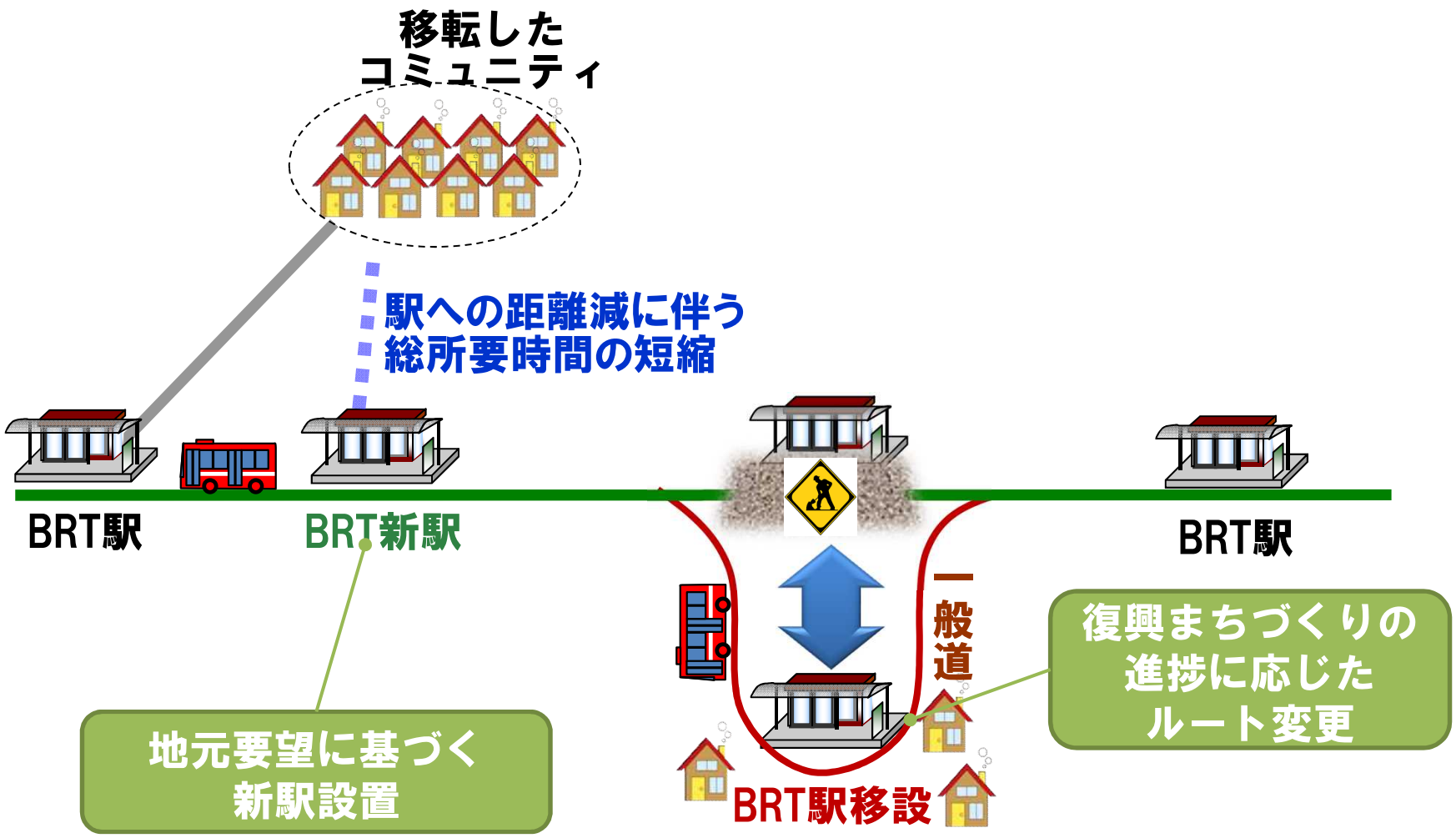
BRTの仮復旧により実現してきた内容に加え、更に、
④地域交通の活性化への貢献
⑤交流人口の拡大に向けた利便性向上
⑥産業や観光の振興による地域の活性化
等の地域のニーズに柔軟にお応えすることで、地域交通としての役割を果たしていきたい。

↓

・延伸が図られる三陸道を利用した高速バスとの連携
・フィダー交通と連携した交通ネットワークの確保
には、引き続き、BRTが最もふさわしい交通手段

被災地の復興まちづくりが本格化する中、
地域が更に発展していくために、
復興に貢献する持続可能な交通手段としてBRTを提案

①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供



①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供

大船渡市内で仮設住宅、観光のご利用等が期待される

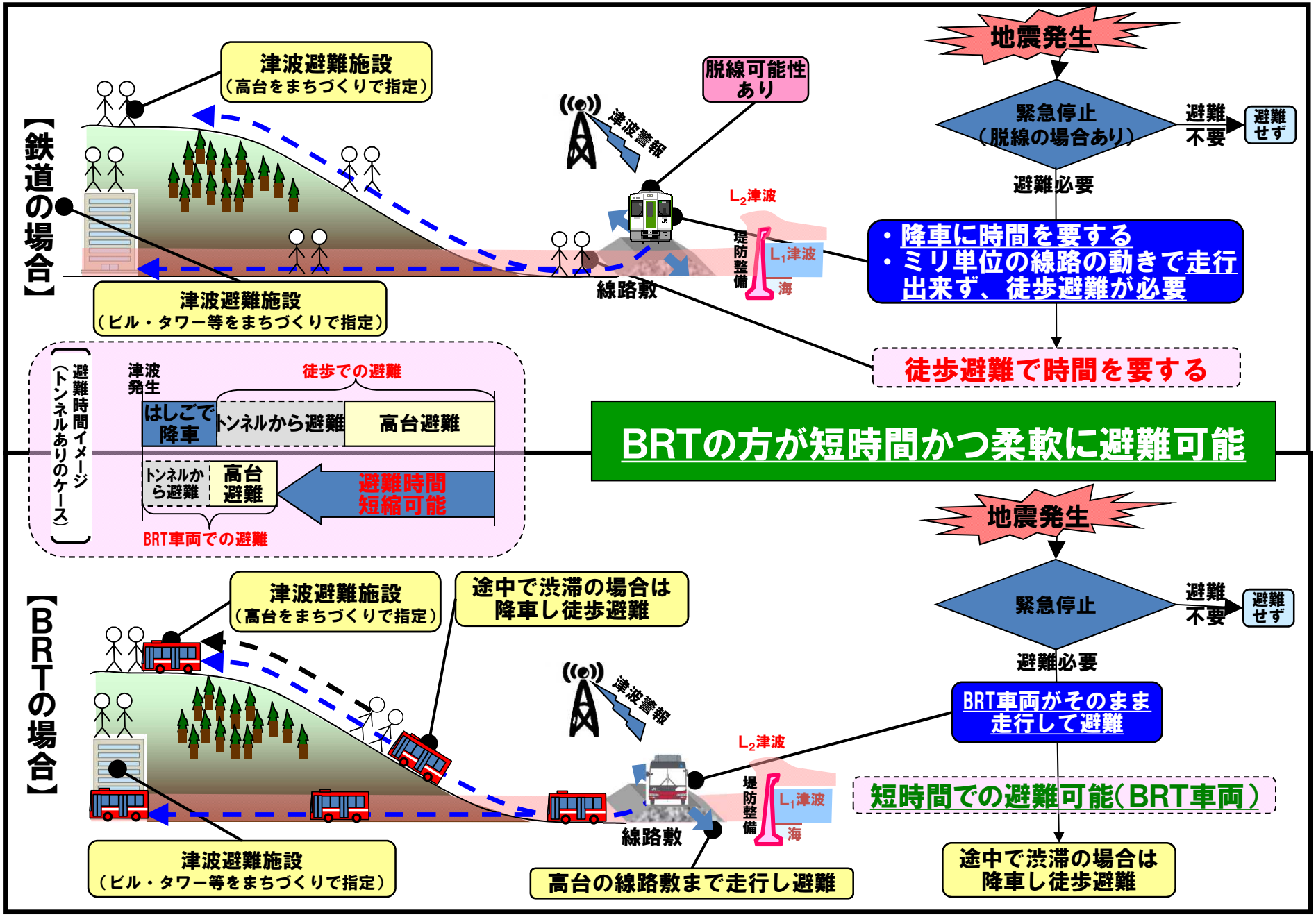
大船渡線BRT「碁石海岸口」新設駅

②津波到来時の安全確保

	鉄　道	BRT
震災発生時	●その場で停止	○道路面を目視し、運転できるところは運転可能
運転再開	●係員による安全確認必要 ⇒仮に再開できるとしても相当時間が必要	
津波からの避難	●駅間停車の場合、避難はしごを使い降車後、歩いて避難	○車両で高台等まで直接避難 ○可能なところまで避難した後徒歩で避難 ○乗降口から降車可能であり速やかに避難開始可能

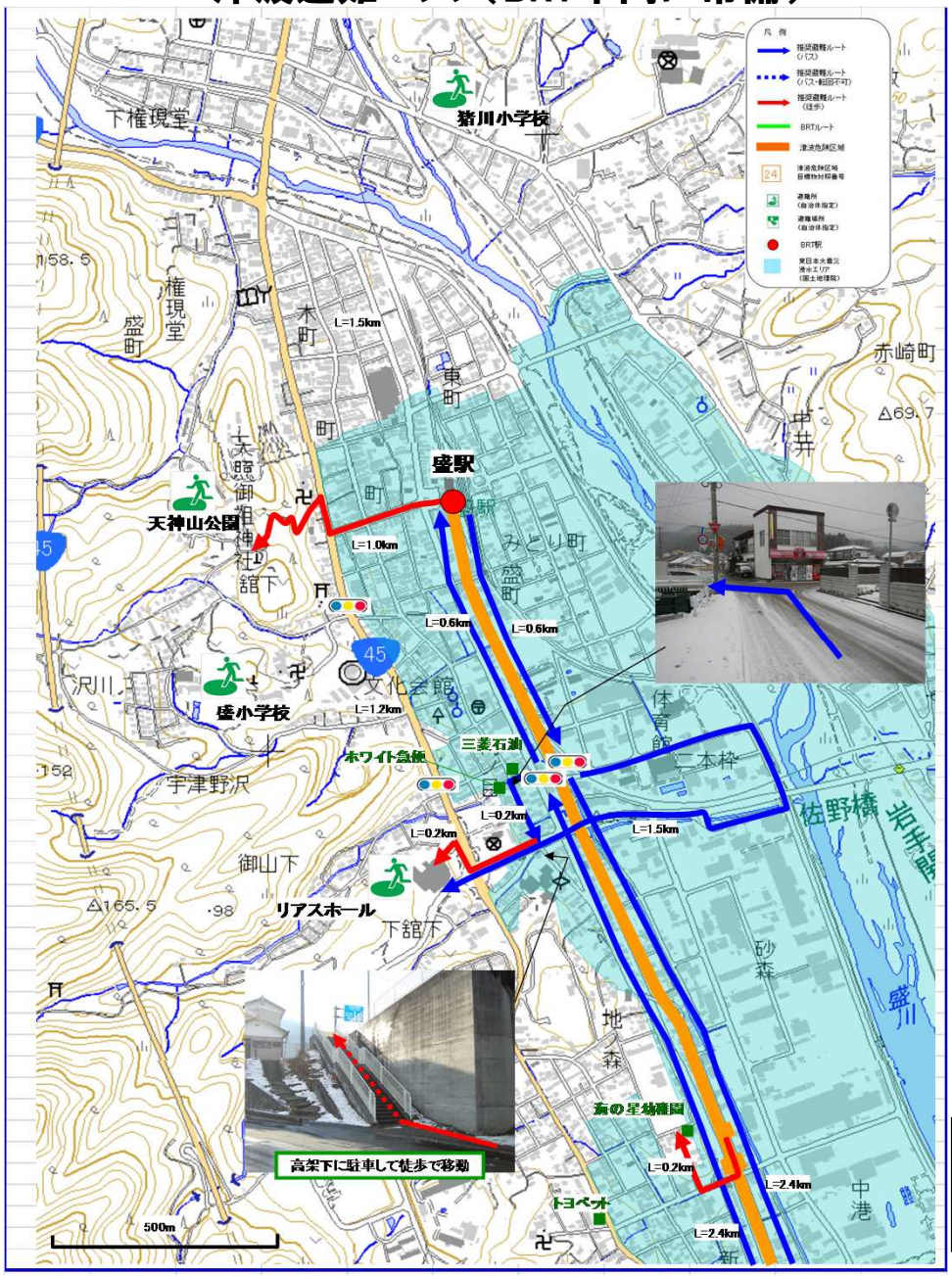
※　○メリット、●デメリット

②津波到来時の安全確保



②津波到来時の安全確保

津波避難マップ（BRT車両に常備）



津波避難訓練の様子

2012年12月の津波警報発令時にBRT車両が地震発生から10分以内に避難を完了

③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

	大船渡線（気仙沼・盛）		
	鉄道（震災前）	BRT（現在）	BRT（将来）
駅数	12駅	17駅 （うち新駅5）	17駅 ＋自治体要望に合わせた新駅設置
日中の運行頻度 （運行本数）	1時間～3時間半程度の バラつきのある運行 （19本）	30分or1時間のパターン運行※ （29本～53本）	30分or1時間のパターン運行※ （29本～53本）
所要時間の変化 （専用道整備率）	65分	74分 ※現在、大船渡市内の区画整理事業等による迂回で82分 （約16km（37%））	74分以下 ※陸前高田市内の運行ルートにより変化 （約22km（51%））

※鹿折唐桑・上鹿折間、陸前矢作発着の一部を除く

○2014年度の大船渡線BRTの遅れ実績

遅れ時間	5分未満	5分以上 10分未満	10分以上
本数	21,056	1,603	402
構成比率	91.3%	7.0%	1.7%

5分未満の遅れが90%以上⇒定時性は概ね確保

③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

パターンダイヤとフリークエンシー向上

大船渡駅上り時刻表の対比

2011.2時点<鉄道>:9本

大船渡線時刻表
上り　気仙沼方面

4		14	45
5	49	15	
6	54	16	39
7	25	17	
8		18	53
9		19	
10	01	20	39
11		21	
12		22	
13	24	23	

2015.7現在<BRT>:26本

大船渡駅　Ōfunato Sta.　　平成27年3月14日改正

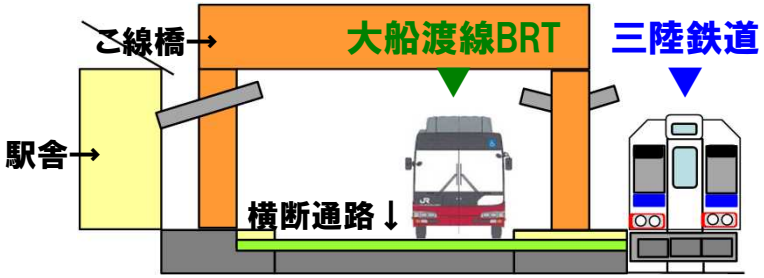
大船渡線時刻表
Timetable of Ōfunato Line
上り　陸前高田・陸前矢作・気仙沼方面
for Rikuzen-Takata, Rikuzen-Yahagi & Kesennuma

4			14	気仙沼行 41◆	
5	気仙沼行 20	陸前矢作行 55	15	陸前矢作行 11	陸前矢作行 41
6	陸前矢作行 35	陸前矢作行 55	16	気仙沼行 11	陸前矢作行 41
7	気仙沼行 12	気仙沼行 26	17	気仙沼行 11	陸前矢作行 51
8	陸前矢作行 11		18	気仙沼行 6	陸前矢作行 41◆
9	気仙沼行 11	陸前矢作行 51	19	気仙沼行 11	陸前矢作行 41
10	気仙沼行 41		20	気仙沼行 21	
11	気仙沼行 41		21	陸前矢作行 1	
12	気仙沼行 41		22		
13	気仙沼行 41		23		

凡例 Legend
青＝陸前矢作行
◆＝観光型「海」BRT車両で運転（ただし、一般車両で運転する場合があります）

③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

盛駅構内への専用道延伸（三陸鉄道との同一ホーム乗換え）

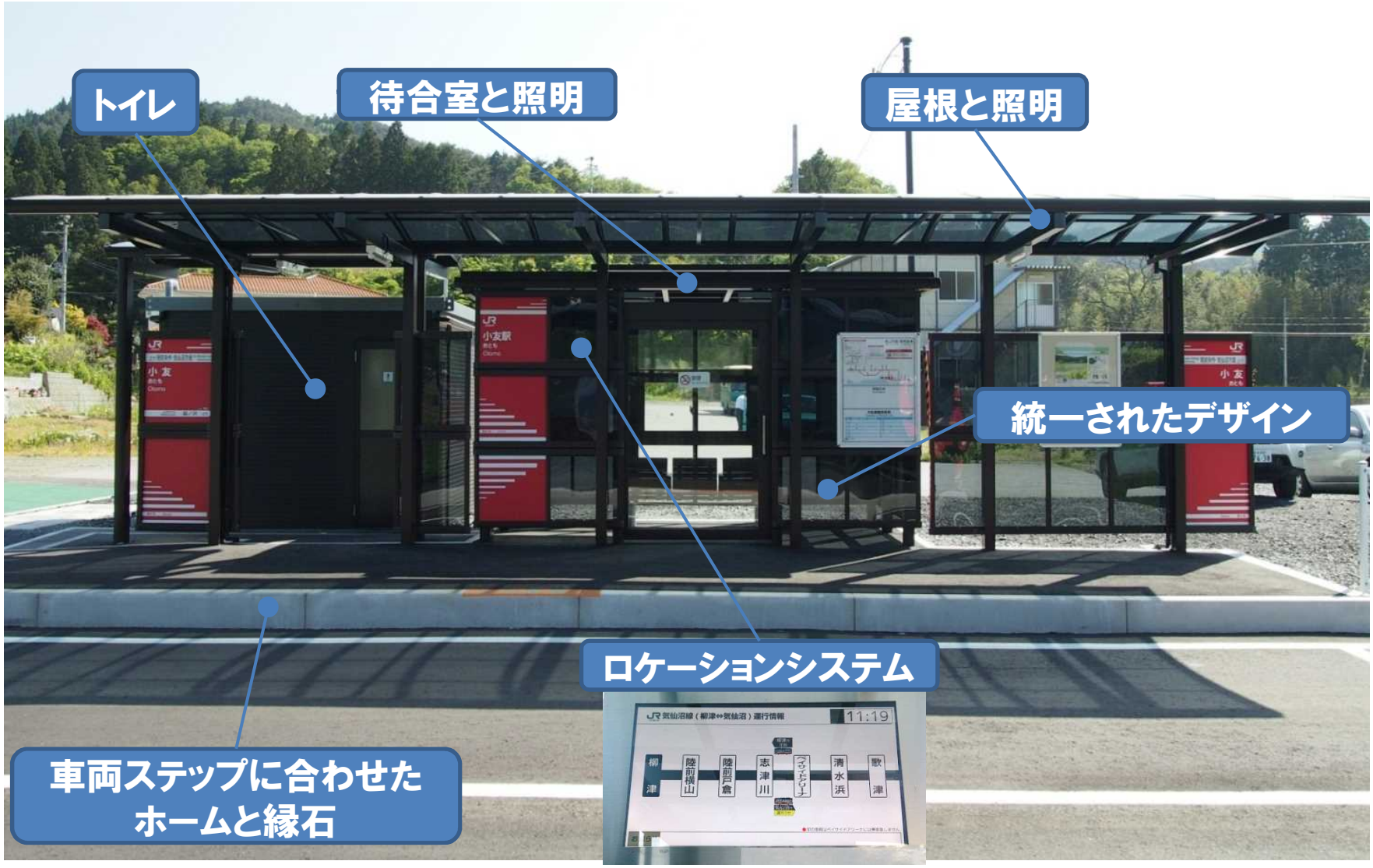


2012.12に改修した盛駅の駅舎

三陸鉄道との乗換利便性を確保

③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

標準的な駅舎（大船渡線BRT　小友駅）



③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

odeca
（オデカ、BRT専用IC乗車券・定期券）

※2015年3月14日より、「Suica」利用が可能に

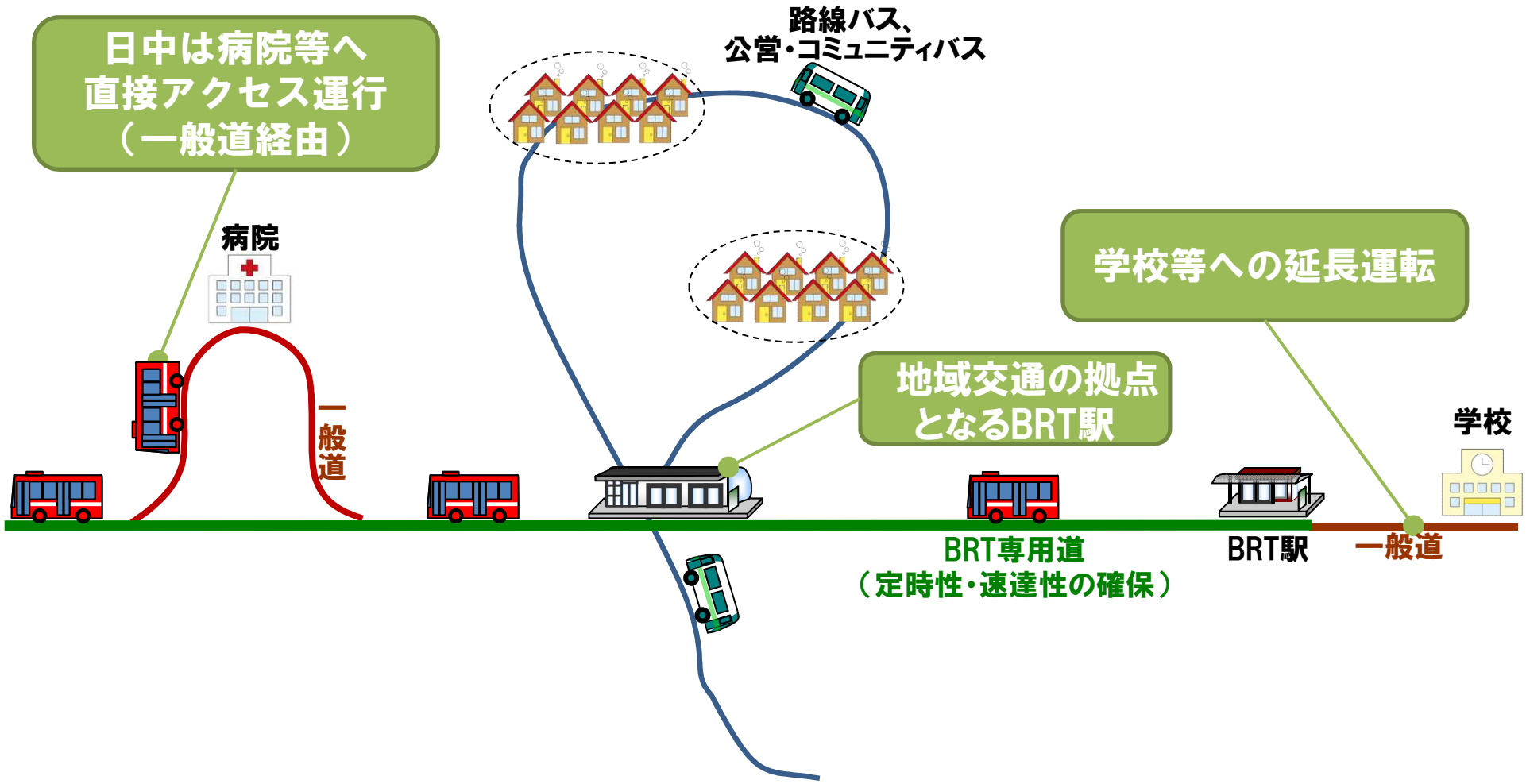
鉄道と同等の運賃設定
BRT⇔鉄道のシームレスな切符の販売

ロケーションシステムとBRTネット

駅での案内画面表示例

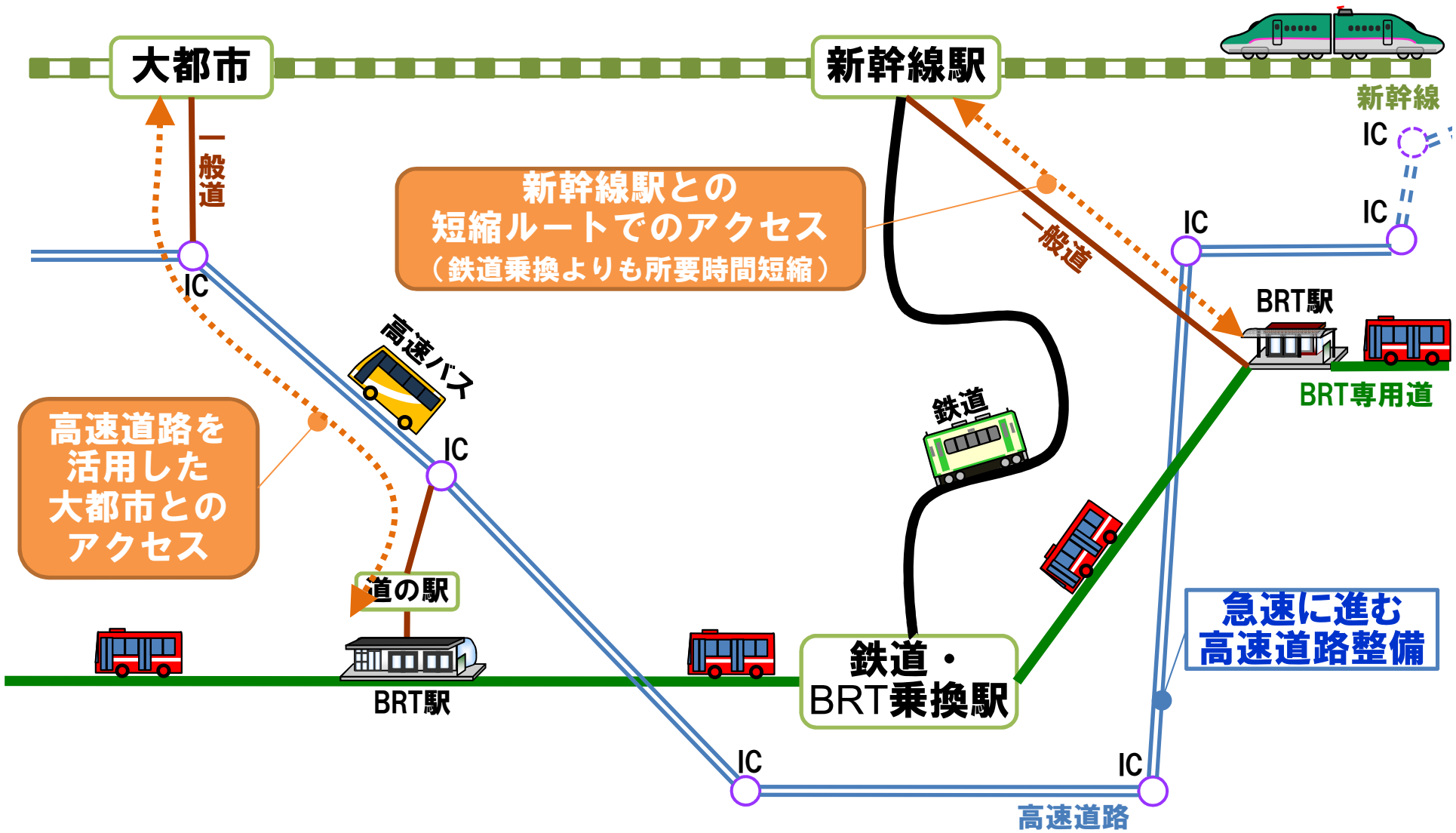
時刻表へのBRTダイヤ掲載
（緑：鉄道　赤：BRT）

④地域交通の活性化への貢献



・基幹交通のBRTと路線・公営・コミュニティバス等の地域交通との結節点として、BRT駅を地域の拠点として活用可能

⑤交流人口の拡大に向けた利便性向上



・大都市及び新幹線との結節を強化し、交流人口の拡大に貢献
（観光振興にあたってもBRTは利便性が高い）

⑥産業や観光の振興による地域の活性化

【取り組んできた事例】

「三陸のものマルシェ」

（三陸地域の地産品PRと販売、観光PR）

- 秋葉原駅で2014年度に計5回開催
  〈延べお客さま数　約30,000人）
- 2015年度　**7月23日～25日（秋葉原駅）**
  12月17日～19日、２月25日～27日開催予定
- 実施内容
  - ➢ PRボードの展示、観光パンフレット、BRT関連スライド放映・パンフレットの配置、旅行パンフレット配置
  - ➢ ゆるキャラとのふれあい、久慈の高校グループ「あまくらぶ」イベントショー、「BRTでつながる3エリアクイズ」ラリー

BRT沿線復興応援キャラクター　おっぽくん

大船渡市

陸前高田市
（たかたのゆめちゃん）

地産品の活用

- 地元自治体・商工会と連携してJR東日本グループ会社の仕入・調理担当者を対象とした現地商談会を開催。（岩泉町商談会）

⑥産業や観光の振興による地域の活性化

【取り組んできた事例】

BRTの社会科見学

沿線の小学校・幼稚園を対象に、BRTの仕組み、交差点の安全確保や体験乗車を実施

電気・観光型BRTの導入

商工観光事業者を対象とした試乗会・報道公開の実施

ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰの会員優待会でのBRT利用券の配布

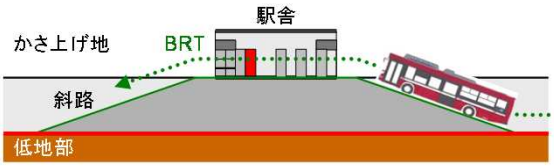
地域が主催する催事への出展

大船渡線BRTのサービスレベルの向上

④地域交通の活性化への貢献
- 陸前高田駅付近区画整理事業に合わせた専用道整備

［現状約16km（37%）⇒計画約22km（51%）］

BRTを整備する場合のイメージ



⑤交流人口の拡大に向けた利便性向上
- 新幹線駅アクセス

①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供
- 大船渡駅周辺区画整理事業の進捗に合わせ運行ルート及び駅位置を柔軟に変更

盛
大船渡市
区画整理事業により一部一般道迂回中
大船渡
新駅要望
下船渡
大船渡
甚石海岸IC
陸前高田市
竹駒
陸前高田IC
通岡IC
高田道路7.5km供用中
陸前矢作
陸前高田
(新)陸前高田
（区画整理）
高田
高校前
高田病院
細浦
陸前矢作
陸前高田（新駅舎：3/14～）
陸前高田
脇ノ沢
奇跡の一本松
脇ノ沢
甚石海岸口
岩手県
長部IC（仮）
長部
宮城県
気仙沼市
小友
唐桑北IC～陸前高田IC
10.0km
（平成30年度開通予定）
上鹿折
唐桑北IC（仮）
唐桑道路3.0km
供用中
唐桑南IC（仮）
鹿折唐桑
気仙沼
気仙沼北IC（仮）
気仙沼港IC～唐桑南IC
7.3km（開通時期未定）
大島IC（仮）
出典：国土地理院

①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供
- 自治体要望に基づく新駅設置（駅数：12駅⇒17駅）

- 自治体要望を受け設置予定（大船渡魚市場前）

専用道		専用道上駅	
（供用中）	―	（供用中）	○
（今後計画）	―	（今後計画）	○
一般道	―	一般道上駅	○

N

気仙沼・鹿折唐桑間
専用道供用開始、気仙沼駅
ホームへの乗入れ（3/14～）

【一ノ関直通のバス（現状）】

一ノ関駅 ⇔（5往復）⇔ 気仙沼駅 ⇔（2時間21分）⇔ 陸前高田市役所 ⇒ 盛駅

一ノ関駅 ⇐（4往復）⇐ 陸前高田市役所

1時間12分　38分　31分

（参考資料）
JR東日本における
地域振興の取組事例

びゅうばす

・JR東日本と地元が自信を持ってオススメする地域の観光スポットへご案内する観光周遊バス
・列車を降りたら駅前からびゅうばすに乗車、各地の見どころがギュっと詰まったコースを気軽に効率よく周遊可能
・快適に各地の魅力的な風景、歴史・文化、味覚をご満喫いただけるもの

共同観光キャンペーン

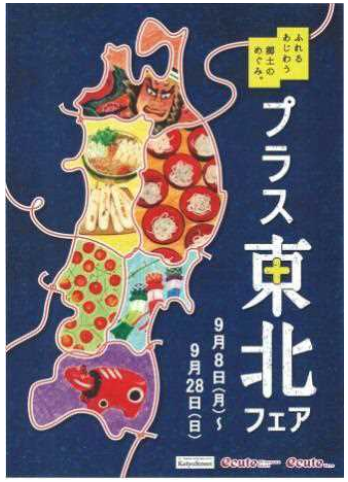
○長野市・金沢市共同観光キャンペーン

【長野市】

【金沢市】

※写真は全てイメージです。

○プラス東北フェア



・より多くのお客さまにお越しいただくために、地域とJRが一体となって観光素材を発掘し、受入体制を整備し、さらに磨き上げる。

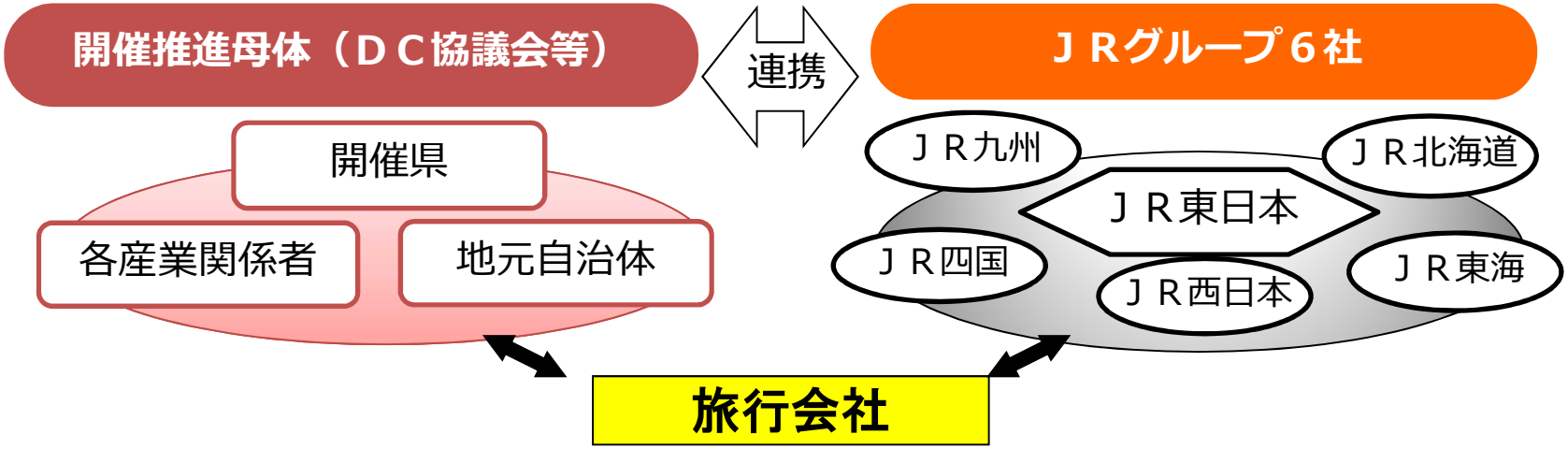
・JRは磨き上げた観光素材を旅行商品に仕立てたり、情報発信や物販などを首都圏を中心とした駅・エキナカなどで実施し、多くの方々に地域の魅力をPR。

・地域は着地のメリット（観光客増加・地域経済活性化）、

JRは送客のメリット（エリア内に魅力的な観光地を持つことによる鉄道利用促進）をお互いに享受。

デスティネーションキャンペーン（DC）

ＪＲ６社と地方自治体や地元観光関係者が協力し、観光資源の掘り起こしとＪＲ６社の宣伝媒体を活用した集中宣伝・創客を行う、国内最大規模の観光キャンペーン



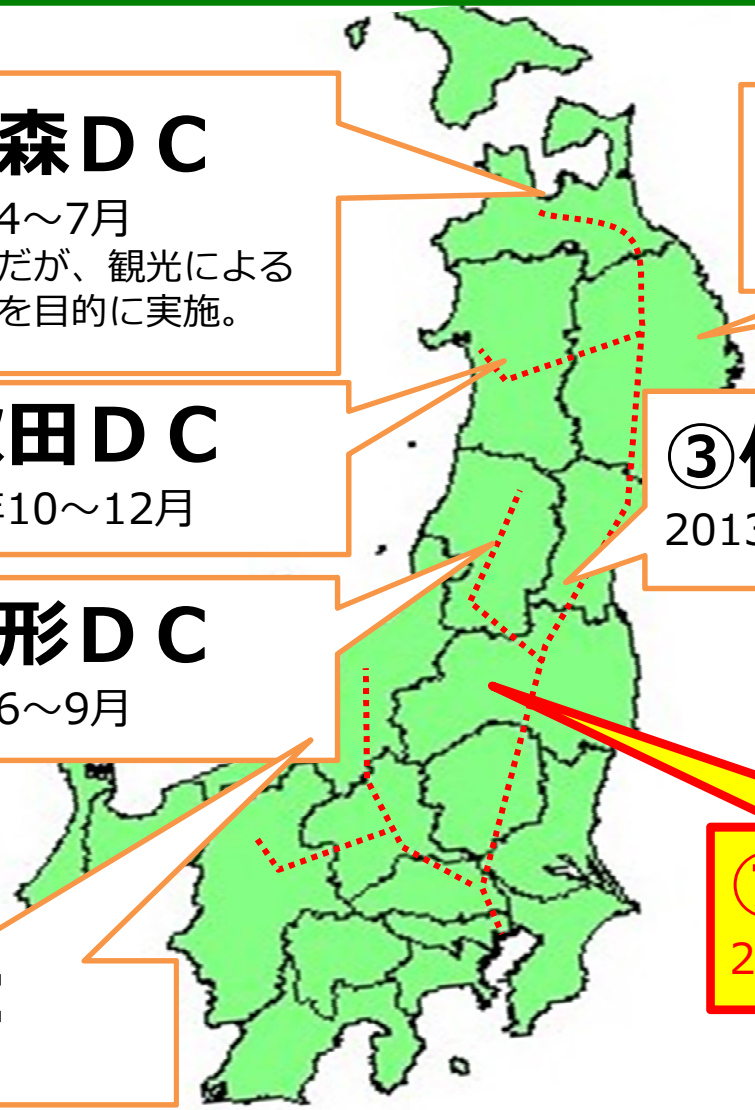
観光産業中心・宣伝中心のプロモーションから

↓

地域全体で・おもてなし・「ありのまま」の「みがきあげ」による地域再生へ

デスティネーションキャンペーン（DC）

ＤＣが東北じゅうを駆け巡る



①青森ＤＣ
2011年4～7月
震災直後だが、観光による復興支援を目的に実施。

②岩手ＤＣ
2012年4～6月

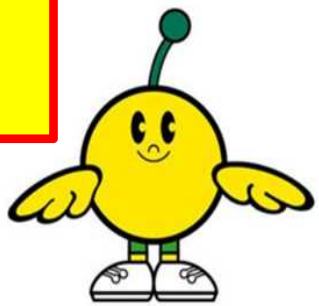
③仙台・宮城ＤＣ
2013年4～6月

④秋田ＤＣ
2013年10～12月

⑤新潟ＤＣ
2014年4～6月

⑥山形ＤＣ
2014年6～9月

⑦福島ＤＣ
2015年4～6月



ふくしまデスティネーションキャンペーン（2015年4月1日～6月30日）

・「花」「食」「温泉」「復興」を柱として、地域の特色である「桜」「歴史・文化」「自然」や地域が準備する「DC特別企画」などの魅力をお楽しみいただけるご旅行を提案

・あわせて、磐越西線での「のってたのしい列車『フルーティアふくしま』」の運転や駅からの接続交通の整備など、東北新幹線と常磐線を軸に福島県内を東西に延びる各線区を活用し、広域観光周遊ルートを充実

○フルーティアふくしま

磐越西線 郡山～会津若松間、4 月25 日（土）から土休日を中心に1 日2 往復

ホテル フォルクローロ三陸釜石

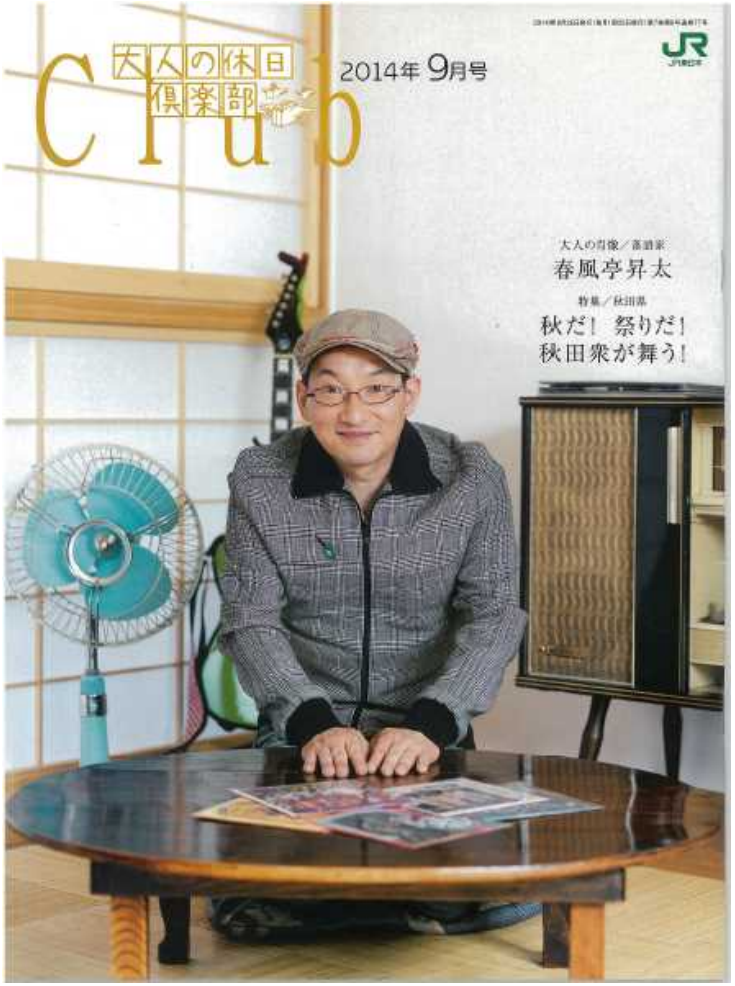
・釜石市の観光振興策と連携し、**三陸地域の観光流動創出と駅前エリアの活性化**を図る
・三陸観光の入口として、釜石駅に隣接したホテルを開業（開業：2015年3月29日）
・旅に便利な観光情報を発信する他、旅の疲れを癒せる展望露天風呂を設置
・ホテル内に、地域の皆さまが気軽に集えるカフェスペースを設置

所在地：岩手県釜石市鈴子町22番4号（釜石駅隣接）
開業日：2015年3月29日
客室数：7階建て113室

活性化・観光開発に向けたモニターツアーの実施

・飯山線沿線での活性化・観光開発に向けたモニターツアーの実施
2014.3 「雪原カーニバルと大地の芸術祭の里を歩く
焼き物古民家ひな祭ツアー」
2014.12 「雪国・十日町市で培われた美しき冬の手仕事に出会う旅」

当社媒体を活用した地域の情報発信



トランヴェール

（発行部数65万部）

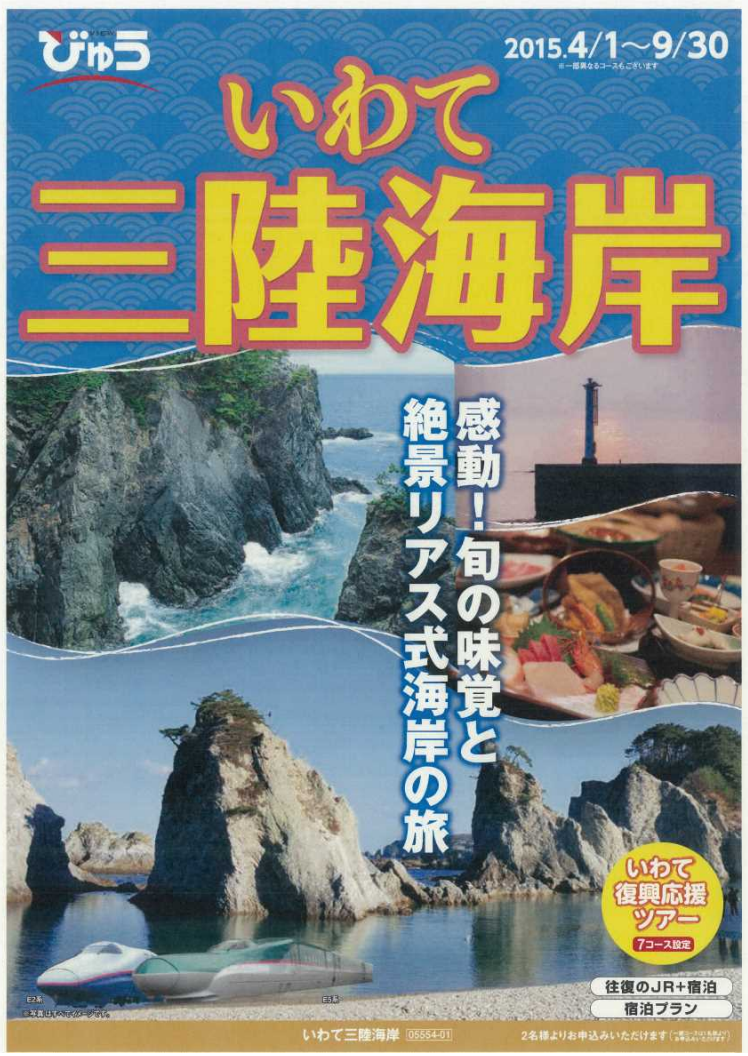
・東北・山形・秋田・上越・長野新幹線座席に設置
・「感じる旅、考える旅」をコンセプトに東日本エリアの文化・風土を紹介

大人の休日倶楽部会員誌

（配布部数120万部）

・「大人の休日倶楽部」会員を対象とし、「学ぶ」を「遊ぶ」、「遊ぶ」を「学ぶ」をコンセプトに、ニーズに対応した魅力的な旅情報のほか、新しいライフスタイルを提案

観光需要創出（旅行商品設定、駅からハイキング）



びゅう旅行商品
・各地の観光素材、おもてなしを旅行商品化

駅からハイキング
・駅に集合し、四季折々の絶景ポイントを味わいながら気軽に参加できる日帰りイベント

「のもの」「産直市」

のもの
上野マルシェ
宮城産直

「のもの」

・東日本の各地域の食を中心に地域の魅力を発信する地産品ショップ。
・銘菓、地酒、加工品といった、「旬のもの」「地のもの」「縁のもの」を紹介。
・東日本の玄関口である上野駅、山手線・中央線・総武線等の結節点である秋葉原駅。この2つの駅から地域の魅力を発信

「産直市」

上野駅をはじめとした首都圏の駅で、魅力的な地産品の販売や観光PRを実施
（延べ3477日、うち首都圏支社分2986日）

・JR東日本グループは商品発掘、開催環境整備、情報発信
・行政はイベント等を通じ、地域の魅力を発信
・生産者等が、自ら販売して地域商品の魅力を伝える

「三陸のものマルシェ」（三陸地域の地産品PRと販売、観光PR）

・秋葉原駅で2014年度に計5回開催
〈延べお客さま数　約30,000人〉

・実施内容
- ➢ 三陸沿岸PRボードの展示
- ➢ 観光パンフレット等の配置
  〈延べ配布枚数　約1万8千枚〉
- ➢ BRT関連スライド放映・パンフレットの配置
  〈延べ配布枚数　約4千枚〉
- ➢ 東北・三陸沿岸方面への旅行パンフレット配置
- ➢ ゆるキャラとのふれあい
  〈延べ出演数　20キャラクター〉
- ➢ 久慈の高校グループ「あまくらぶ」イベントショー
- ➢ 「BRTでつながる3エリアクイズ」ラリー
  〈延べ参加者数　約6百人〉

BRT沿線復興応援キャラクター　おっぽくん

岩手県（そばっち）

BRTクイズラリー

南三陸町
（オクトパス君）

気仙沼市

大船渡市

陸前高田市
（たかたのゆめちゃん）

地産品の活用

・沿線の地産品を活かした地域振興を図るため、地元自治体、地元商工会と連携してJR東日本グループ会社の仕入・調理担当者を対象とした現地商談会を開催。（岩泉町商談会）

（岩泉の例）
- 岩泉ヨーグルトをグループ会社で販売
- 岩泉短角牛を用いた肉まんの開発・販売
- 岩泉の素材を活かした駅弁の開発　等

のもの1－2－3プロジェクト

・各地域の魅力ある農林水産物等の素材を掘り起こし（1次産業）、地域の優れた加工技術等（2次産 業）を組み合わせ、お客さま視点を踏まえた商品開発と販売（3次産業）を新たに推進するために、<u>生産から販売までを一体化した「のもの1-2-3」プロジェクトを推進</u>

・「のもの」などエキナカを中心とした店舗等を活用して「マーケティング・消費者ニーズの共有」、「テスト販路の活用」、「食品表示や衛生基準など商品開発に関わる情報の共有」などを行い、消費者が求める商品の開発につながる循環を創出

事例：青豆のあきたこまちクラッカー（秋田）、信州ジビエ鹿肉バーガー（長野）スウィーツアトリエ「東京の畑から」（東京）、「會津あかべぇの酒」（福島）、女川特産ほや商品（宮城）等

Ｂ－１グランプリ食堂　AKI-OKA CARAVANE

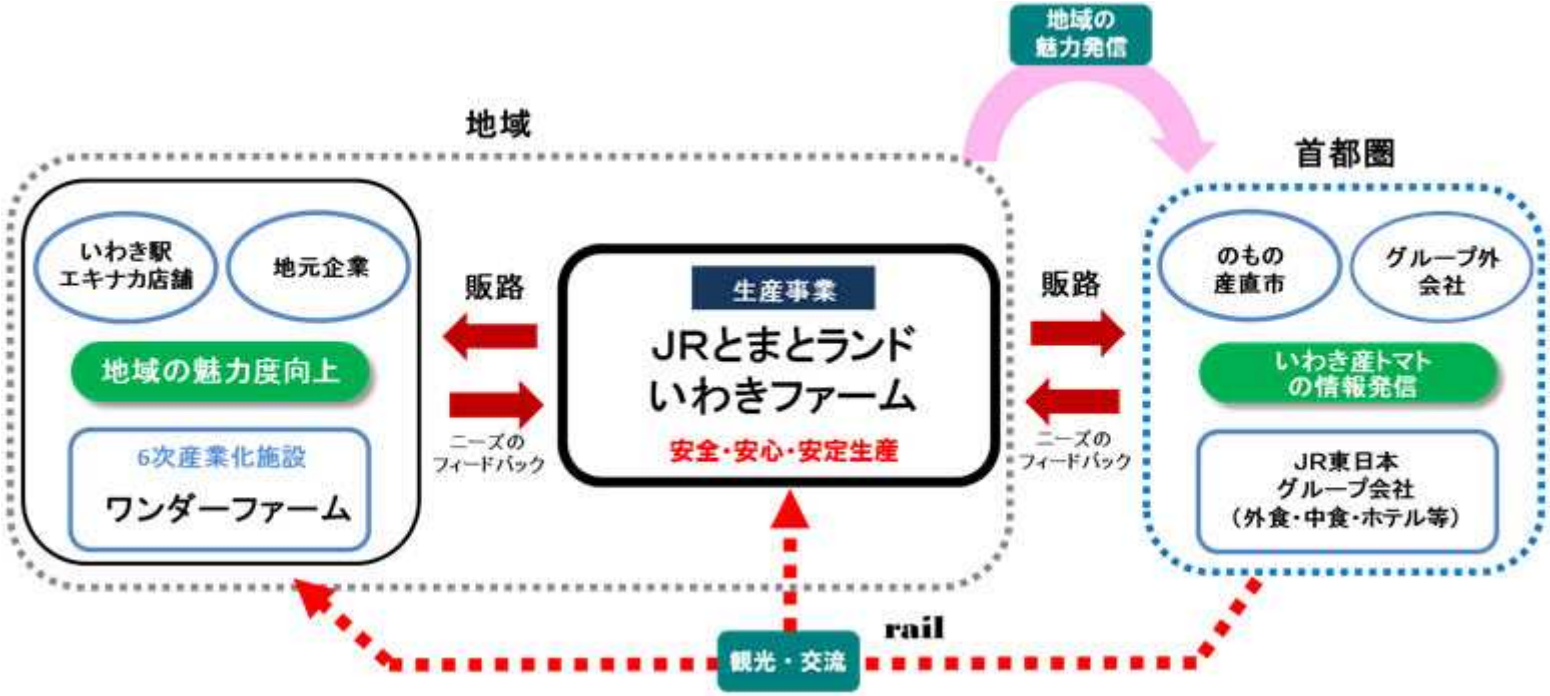
・地方創生を目的としてご当地グルメを通じて地域おこしに取り組むイベント「B-1 グランプリ」の都内初の常設公認店
・秋葉原- 御徒町駅間の高架下に2015 年7月10日開業
・観光客で賑わう「秋葉原」で、日本各地の食文化の情報発信基地として、国内外問わず、多くの方に日本の魅力を発信する場を創造
・「地方から日本を元気に！」をキーワードに地域活性に取り組む「B-1グランプリ」の理念を応援し、更に鉄道事業と連携することで、実際に現地に足を運んでいただきたいという願いを込めています

十日町すこやかファクトリー

・「地域との連携強化」「6次産業化」の具体的な取り組みとして、十日町地域の特産品である魚沼産コシヒカリ（米粉）を用いた食品工場を建設し、**地域経済の発展や雇用促進に貢献**
・アレルギー対応菓子を製造（卵・乳・小麦を不使用）
・工場名には、お子様たちがこの工場で製造するケーキやお菓子を食べて、すこやかに育って欲しいという願いを込めた名称
・駅のコンビニ「NEWDAYS」やベックスコーヒーショップ、新幹線車内販売、グランクラス等に供給
・2016年春以降デビューの「GENBI SHINKANSEN（現美新幹線）」車内でも提供予定

所在地：新潟県十日町市上新井361番1号（十日町駅より車で約10分）
出荷開始：2014年9月1日
従業員数：26人中21名が地元採用者（2013年9月現在）

JRとまとランドいわきファーム



・地産品の販路拡大や地域の6 次産業化に向けたものづくりとして、地域の先進農家である（有）とまとランドいわきと提携し、トマトの生産を行う新法人を福島県いわき市に設立。
・新法人は太陽光利用型植物工場を建設し、安全・安心・安定生産を行うとともに、地域やグループ会社と連携し、生産から流通、販売まで一貫した取り組みを通じて、交流人口の創出や地域活性化を図るもの。

A-FACTORY

・**青森市のまちづくり構想にあわせて**、青森駅東口ウォーターフロントエリアに開設。八甲田丸や青森ベイブリッジ、ねぶたの家「わらっせ」等と連携して**青森駅前の賑わいを創出**
・青森県産りんごのシードル工房と地元のさまざまな食材が楽しめるマルシェ（市場）の複合施設
・マルシェコートでは、青森全域の食材を集め、農家のこだわり野菜や果物のほか、お米や加工品などがズラリと並び、ここにしかない青森の魅力を発見出来る
・館内中心部には、醸造行程が目の前で見学できるガラス張りの「魅せるシードル工房」があり、青森りんごの選定作業から醸造作業など職人の手仕事を見ることが出来る
・工房内には8個の醸造タンクがあり、各種シードルとアップルソーダを醸造

所在地：青森県青森市柳川1-4-2（青森駅隣接）
開業日：2010年12月4日（東北新幹線新青森開業日）

青森りんごジュースの販売

・JR東日本ウォータービジネスにて販売
・「高品質な美味しい果物を地元企業と共同開発すること」をキーワードに、地域の特産品として青森りんごを使用し、エキナカから「ここにしかない価値」をお客さまにお届けするため青森りんごシリーズを展開。
・青森県産りんごの消費拡大や知名度向上に貢献したことが評価され、青森県より「平成26年度青森りんご勲章」を受賞

大船渡フィッシュ＆チップスコンテスト

・大船渡の新鮮な魚を使ったグルメ開発を通じて、大船渡水産物の普及を図る活動
・審査委員にJR盛岡支社、メトロポリタン盛岡が参加

共催：一般社団法人料理ボランティアの会、市、商工会議所、青年会議所等
協力：JR東日本

BRTの地域活性化に向けた取り組み

・BRT沿線の小学校・幼稚園を対象に、社会科見学としてBRTの仕組み、交差点の安全確保や体験乗車を実施

BRTの地域活性化に向けた取り組み

・ショッピングセンターの会員優待会での
BRT利用券の配布
・電気・観光型BRTの導入と、商工観光事業
者を対象とした試乗会・報道公開の実施
・地域が主催する催事へ出展